

広報 展示室

Koho
Gallery

第22回

企画展

「一保永堂東海道から豎絵東海道」

江戸時代の東海道の旅は、徒歩を中心に渡舟、駕籠、馬などを利用しながら126里6丁（約496キロメートル）の距離を約2週間て走破しました。当時の旅は命がけで、旅立つ時に友人たちと水杯を交わしたといひます。病気、怪我、護摩の灰（詐欺師）や天候に悩まされながらも、その分名所旧跡を見物し美しい風景を堪能し、地元の名物料理を満喫し、さまざまな旅人と知り合い、江戸で旅行ガイドブックや錦絵では味わえない旅の醍醐味に興じることが出来ました。しかし今日では、東京と京都間を新幹線を利用すると、2時間20分で着いて



②「五十三次名所図会 一 五十三次名所図会 五十五 大尾 京 三條大はし」(大判 版元：蔦屋吉蔵)

①の作品は、近景が鴨川と三條大橋で遠景の大きい山が比叡山、小さい山が清水山でその中腹にあるのが清水寺と知恩院です。三條大橋は、天正18年（1590）

しまいます。旅を味わう間もなく、居眠りする余裕もなく、逆に居眠りをすると目的地を通り過ぎてしまいます。

今回紹介する作品は①「東海道五拾三次之内 京 三條大橋」と「五十三次名所図会 五十五 大尾 京 三條大はし」です。①の作品は、近景が鴨川と三條大橋で遠景の大きい山が比



①「東海道五拾三次之内 京 三條大橋」(大判 版元：竹内孫八)

に豊臣秀吉の命を受けて増田長盛が奉行となり（今日の現場監督）礎を盤石で固め、橋脚の石柱63本使用した頑丈な橋でした。しかし広重が天保初年（1830～32）に制作したこの作品の三條大橋の橋脚は木造の構造になっています。この事から天保初年に広重は東海道を旅していないのではないかとわれています。当時間も同様の指摘がされたようで、広重は後に20余種の東海道を制作していますが、三條大橋の橋脚部分は描いていません。

つぎに紹介する②の作品は広重にとっては最後の東海道シリーズです。作品中の三條大橋の安政2年（1855）に制作した橋脚部分は、石柱で描かれています。広重は20年の歳月を掛けてようやく修正しました。他にも比叡山は描かれず、清水山と山中に位置する清水寺は描かれていますが、知恩院は霞の中に隠れています。この2つの東海道には他にも小さな違いがいくつもあります。2つの作品の制作時期のズレは約20年です。その間に微妙に名所地のズレがあったり広重の勘違いを修正したりしていたようです。

【会期】後期 7月12日（木）～8月19日（日）

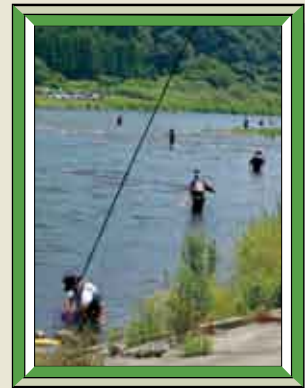
那珂川町馬頭広重美術館 学芸員 市川 信也

ばとうの観光写真コンテスト受賞作品 入選

田町・午後6時 石井普一さん(高岡)



ミニ ギャラリー



鮎
解
禁

ミニギャラリー 作品募集!

あなたの作品をここに
出展してみませんか?

絵画、写真、絵手紙などの
作品をお待ちしております。
問い合わせ：企画財政課

☎0287-92-1114